

第 56 回全国学童保育研究集会（20211023~20211024）レポート

【クラブ】（ 風の子クラブ ）

【名 前】（ 鈴木 美幸 ）

① 2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

第（8）分科会 （子どもの放課後を考える ）

② この分科会を選んだ理由をお書きください。

子どもの放課後とは、どうあるべきか？学童保育所内で、子どもたちはどのようにして過ごすのがより良いのかを聞きたくて選びました。

③2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

〈全体会〉

泣きながら話される姿に、今もって震災は終わっていないことを目の当たりにし、しなくてもよい震災という経験が、子どもたちにどれほどの傷を負わせているのかと思うと涙が出た。また「備えることの大切さ」は、一番心に残った。おやつはその日その日の準備ではなく、ストックがあるとよいとの言葉に、非常食とは別に日持ちする甘いお菓子の準備はしておこうと思った。

石原先生の学童保育の歴史は、日本の学童ほいくに連載されていたので大まかなことは理解していたが、いつの時代も「子どもが真ん中」は変わらないし、変えてはいけないと思った。どんな状況であれ、未来を担う子どもたちの生活がしっかり保障され、より良いものとなるよう我々指導員は、たくさんの子どもの育ちに関われることをありがたく思うと同時に楽しく、そしてともに成長していこうと思った。

〈分科会〉

放課後という言葉に、学童保育所での過ごし方のヒントになればいいなと思い参加したが、そうではなく、「放課後」の言葉の本来の意味、在り方を勉強する機会となった。

放課後は『子どもの自由世界』であり、子ども主体の誰からもしぼられない、やりたいことを自分で決め、学校という管理から解き放たれた時間でなければならないそうだが。しかし現状は、学童保育所を含め子どもが安心安全に過ごせる場所・施設は十分にはなく、保護者は安心安全(事故・犯罪から守るため、または生活の乱れを懸念)を求めて、子ども自身がどう思っているかは二の次で、塾・習い事へと通わせる。本来はそうではなく、地域で子どもの放課後を保障すべきであるとのことだった。

子どもの声が騒音などと言う訴訟は、大人の寛容さが失われていたり、子どもに関心がなかったり、子どもに対して攻撃的な目を持っていたりするからであり、逆に子どもとか

かわりのある地域は、訴訟問題には発展しないらしい。

放課後の時間は大人が決めるのではなく子どもが自分で決め、自由世界として実現できるように我々指導員は、地域にうまく巻き込まれていくことが重要とのことだった。

例え話で先生は、ドラえもんに出てくるような「ドラム缶のある空き地で遊ぶ」あれが本来の放課後の過ごし方だと言われていた。確かにドラえもん、サザエさん、ちびまる子ちゃんなどは、放課後に外で遊んだり、地域の大人が声をかけたり、時には叱ったりと、地域の大人が見守り、育てる場面が多くある。

しかし今の時代、空き地もなく、公園も少なく、車社会となった今、道路で遊ぶなんてことはもっての外。(昔も今も道路では遊んでいけないが私の子ども時代は、普通に近所の子ども同士で年齢関係なく道路で遊んでいた)

学校教育が教育産業に乗っ取られ「遊び」より「勉強」と進学塾が盛んとなる。別の側面からは、放課後子どもプランと学童保育が一緒くたになってしまっている。学童保育所の民間企業が参入 OK。これらはすべて間違いだとおっしゃってみえた。(特に、学童保育の民間企業の参入は決定的な間違いだと言ってみえた) また、子どもの生活様式がバーチャル化しており、最近のタブレット (GIGA スクール構想) やゲーム機などの 1 人 1 台などは、子どもにとっては脳が興奮し、発達成長にはよくないとも言ってみえた。(やりすぎると…という意味だと思うが。) 経済の発展のみを考えているだけであると。

何とも壮大な話で、学童保育所でどのようにして過ごすか?ではなく、現状の子どもたちの放課後の様子と、本来あるべき姿の話であった。

風の子クラブは地域から「風の子さん」と呼ばれており、大家さんをはじめ、「うるさい」と面と向かって言われたことはなく、公園へ大人数で行っても、「風の子さん来たね」と好意的に見てくれている。しかしそんな寛大な地域に甘えることなくこれからもうまく地域とつながっていこうと思う。(どうすればいいのかわからないが、まずは挨拶。グループワークでも他県の指導員さん方も、やっぱり挨拶だよな!と言ってみえた。)

今回の研修は子どもたちの学童保育所での過ごし方を考え直すきっかけとなった。

これからは、安心・安全に時として『自由』(かなり難しいが・・・)も付け加えた学童保育所での生活を考えていこうと思った研修だった。